

信州大子山出会

82' (57年)

春山山行報告



毛 ぐ じ

仙丈岳 岳 沢	-----	1
奥三ノ沢	-----	5
梅池	-----	6
日高山 脈	-----	7
後 立	-----	25
八ヶ岳	-----	10
穂 高	-----	13
中丁定着	-----	15
鳳 凰	-----	16
八 峰	-----	17
妙 高	-----	21
荒沢奥壁	-----	9
飯豊縦走	-----	24
不 帰	-----	22
涸沢定着	-----	23
戸 隠	-----	14

仙丈岳 岳沢

○メンバー 田辺(L), 加藤

○期間 1/29 ~ 1/31

○行動記録

1/29 ① → ● (小雪)

伊那 6:00 $\xrightarrow{\text{バス}}$ 杉島 7:20 $\xrightarrow{\text{ヒヤクM}}$ 丸山谷出合 8:00 \rightarrow 岳沢越 1:50 \rightarrow 岳沢F₁

の手前(B.P.)
200m
4:20

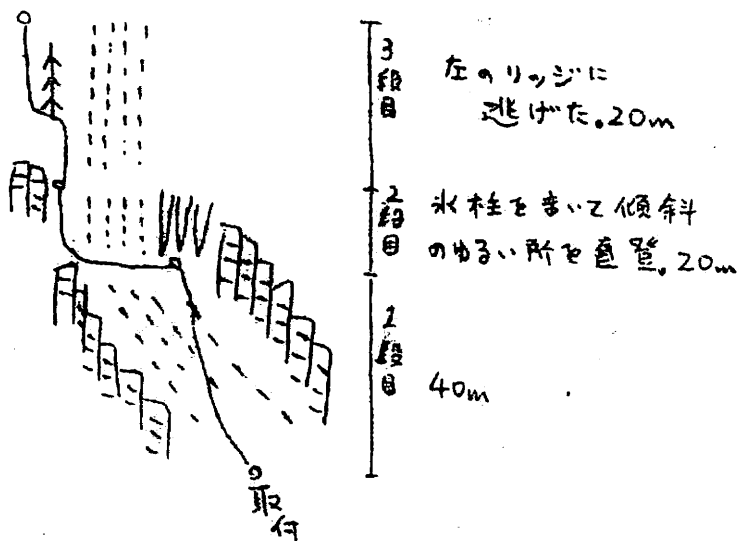
杉島から丸山谷出合までは、雪もなく、かつたろい。林道あるき。丸山谷南沢に入ると、小道が20cmほどの雪の下にかくがいて、実にわかりにくい。水量はかなりある。1409mの二俣は、左俣の右岸を100mほど高まると小道に出る。ここから1550m地点の小屋までは、道がはっきりしている。小屋から沢に出ると、川原に雪が積もった状態で道はまったくわからなくなる。1600mの二俣で、右俣は左俣(本流)に入ってしまったが、岳沢越に出るには、右俣をつめなくてはならない。二俣は、登るにつれて、小氷瀑が連続し、最上部は、激ヤブとなって、多岐な時間を消費せしめよう。三峰川源流は、ヒガ上までのラッセル。水が少し流れていた。F₁手前の川原にビバークしたが、ドカ雪が来た。雪崩にやられ先である。

1/30 ○

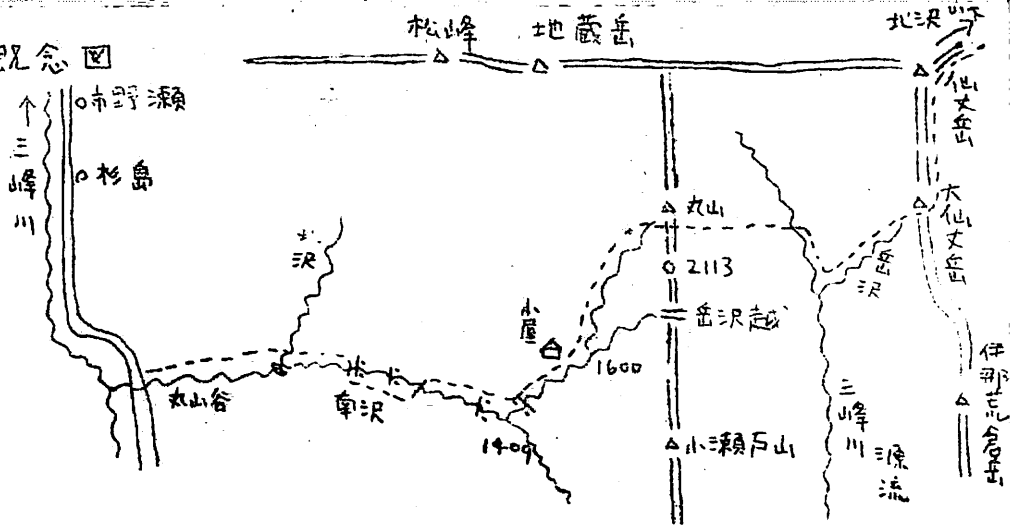
B.P. \rightarrow F₃ \rightarrow 二俣 \rightarrow ソーメン流の滝 \rightarrow F₀下の岩小屋
7:40 9:15 12:00 1:20 B.P. 5:15

F_1 は (10m) ガイルをつけて直登。 F_2 は雪にうもれていた。 F_3 (30m) は、
 滝の石の端から取り付き、左へ上、2ピッチで3巻口に出ける。 F_4 (20m) は、
 垂直に近い。左岸の岩を登って来た。(III+程度) 二段には、壁の合戦
 目から F_6 (15m) がかかっている。簡単に直登してゴール道の中を行くと、
 ソーメン流し滝である。下から一段目は、 20° 程度のゆるい氷面が40m
 続き、二段目は、 50° ぐらいの壁が20m。三段目は、垂直に近い氷が
 つづいている。ソーメン流し滝の下で一本していたら、突然巨大なツララが崩
 壊し、肝を冷した。これでめげて、三段目は、岩のリッジに逃げてしまった。
 この上は、広くひろげ、三原流等の様相を見せている。1-ガイルで F_9 (10m)
 を越え、 F_{10} 横の岩のヒサシの下でピバークした。

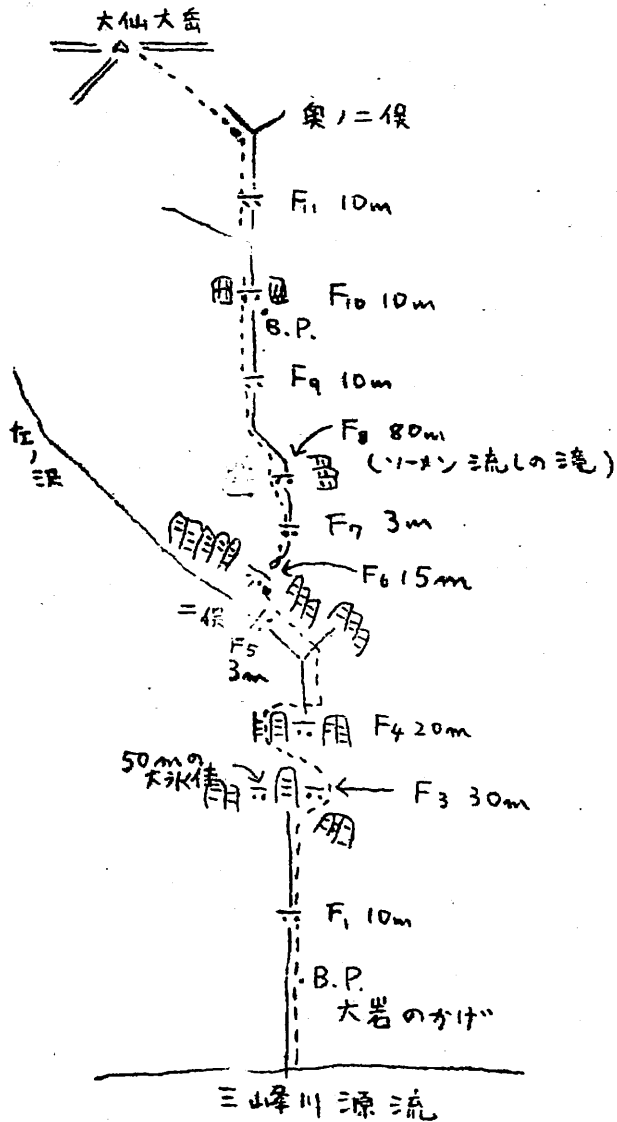
○ ソーメン流し滝ルート図



○ 概観図



○ ルート図



1/3 1

①

B.P. — 奥十二保 — 大仙丈岳 — 北沢峠 — 戸台
7:20 7:50 8:45 11:10 2:40

F₁₀ (10m), F₁₁ (10m) は 1-ザイルで ホイホイ。クラスト
クラストした 余斗通をつめて、大仙丈岳に立った。北沢峠へは、
トレースがついている。あとは戸台までのランダリするほど長い
道を歩いた。

Comment

一月の下旬に岳沢に入ってみたが、やはり時期がおそく、氷瀑
はどしゃく、下 1/3 が雪にうまっていた。今後岳沢を計画
する人は、ぜひ 12月～1月初旬に入ってもらいたい。

沢の中では、雪崩に対して安全なビバークサイトがまだ得ら
れない。天候周期を見て、石稜稜に安全な時期に入谷すべ
きである。氷登りはある程度 氷登りの要素を含むでいる。
沢のルートファインディングも大切に。また、氷をふみまわって
沢がハメになったら、軽快はうまに、帰ってくるべきであらう。
氷では、当然のことながら雪洞は、ほめない。冬の本真中ド
1/2エルト1枚でビバークすることになる。沢田君の大好きな、
耐寒訓練でもやった方がいいかもよ。

(田辺)

奥三ノ沢

○メンバー 田辺(L), 加藤, 関, 細川

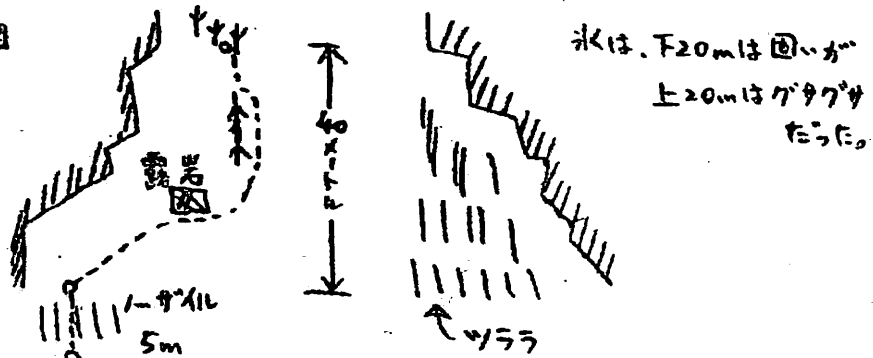
○期間 2/19 ~ 2/20

○行動記録 2/19 ◎ → ⊗ (夜になって雨)

上松 タクシ- 2合目 — 敬神小屋 — 岩小屋 — F₁ 試登 — 岩小屋
 8:20 9:15 9:40 13:10 14:00~16:00 16:40

前日、上松で酒を飲み過ぎたのと、タクシーの手違ひがあり、出発がかなりおくれた。(行きたくない人もいたらしいが) 敬神小屋から滑川を渉るが、トレースがあり、ヒョコはすすむ。積雪量は30cm程だ。スヤマ屋根末端付近で、トレースがもかりにくくなったが、まだじきに、明確になる。渡渉地点もあまり迷うことなかった。奥三ノ沢手前300mに、快適な岩小屋を見つけた。天候悪化が目に見えていたので、奥三ノ沢に入ることはやめ、ここに泊まることにする。滑川のこのあたりは、よほどのことがないかぎり、雪崩の心配はない。荷を置いて、試登に出かけた。200mほど行った所で関が渡渉に失敗、ズブぬれになって、1人、岩小屋にリフトしていった。(カワイソウに) F₁の試登に2時間かかるとしたため、F₂はあきらめて、岩小屋にもどった。

F₁ ルーテ



2/20 ● 岩小屋 — 2合目 タクシ-
 P.M 2:00 5:15

昨日からの雨で、岩小屋は水タマリとなり、ズブぬれになった。きっと氷瀑の上も水が流れていることであろう。雨がホフツリになるのをまって下山した。

○ Comment : 天候に恵まれず、サンサンな天気に会ったが、奥三ノ沢の傾斜山行としては、意義があった。奥三ノ沢は、なんといっても、7700-4が短いことが最大のメリットである。滑川流域には、奥三ノ沢の他に、多くの氷瀑がありそうだ。快適な(?) 岩小屋もあるのだから、これを利用しない手はない。氷にあまり接するこゝろで、松本部員にはまさにトレーニング場となる。

梅池 スキ-合宿

- メンバー 関(L), 日高, 藤田, 松本, 井上, 古賀, 石渡
- 期間 2/23 ~ 2/25

○ 行動記録

2/23 ○ 松本 — 梅ノ森ゲレンデ

白馬大池馬場からバスで親ノ原(10:05)まで入り、梅ノ森ゲレンデまでリフトであがり、上端の植林帯にテント設営(12:30)。設営後ゲレンデでスキー練習。

2/24 ○ T.S — 白馬乗鞍岳 ~ T.S

T.S 発(7:15)。3 pitch で乗鞍岳に着く。登りは、全量キックステップ。ワカン、アイゼンは使用せず。最後の登りは、ひざ程度、ラッセル。下山開始(10:45)。天狗原を過ぎたころから、かえる。T.S(13:00)。その後ゲレンデスキーを練習。

2/25 ○ 14:30までゲレンデスキーを楽しみ、松本へ。

○ Comment

Essen — 計画については、特に問題はなかったと思う。パッキングのとき、ゴチャゴチャに詰めたので、いつ何を食下るのか、はきりしないことがあった。日程が短くてよかったが、もっと、しゃかり、パッキングをしなくては、いけないと思った。

メンバー — 計画段階では、多勢だったのに、準備のときになって、いけなくなってしまった人がいたが、もう少し計画のときによく考えれば、途中でメンバーからはずれてしまうこともなくなるのではないだろうか。

○ 日高山脈縦走

Member) ①丸山(Ⅳ), 茂呂(Ⅲ), 澤田(Ⅱ), タカトリ(Ⅰ)
期間) 3/1 ~ 3/9

☑ 行動記録

- 2/26 ~ 2/28 松本 ~~→~~ 中丸内駅 TAXI → 南丸内
タワシで南丸内まで行き(ゲートが有り、こゝ以上入山しない)
地元の方の家へ泊めていただく。コクワ(サルナシ)酒を飲ま
せていただき楽しく眠る。
- 3/1 (①) 南丸内(7:15) - 丸内川沿いの道をスキーで →
丸内ヒュッテ(13:00)
途中までスリ-モジルのあとが有り、楽に行けた。丸内川
ヒュッテには石炭が有り、暖をとった。
- 3/2 (① → ②) 丸内ヒュッテ(6:20) - コイワクシュサツナイ沢 →
→ 夏尾根取付き(11:50) → 1200m地点(15:30) T.S.
コイワクシュサツナイ沢を数回渡渉の後、夏尾根取付きでスキーを
Pepoする。夏尾根は急登で、ヒザ程度のラッセル(空荷)。
1200m地点をT.S.(1張り張ゆる程度)としたが、1300m地点には
広いT.S.が有る。
- 3/3 (① → ②)
T.S.(6:55) → コイワクシュサツナイ岳北方のピーク(1719)(12:20) →
ヤオロマップ岳からP1842への尾根をカレおいた所。T.S.(16:00)
急登は続き、やせた尾根をへて、コイワク手前のピークへ。稜線
上は風が強く、T.S.へ着く頃には雪も混じっていた。
- 3/4
風雪で視界が良くない(5m程)、北殿。風防壁及びTOILE-
ETを作る。 —ク—

- 3/5 風雪はと小程でもなすが視界が悪く(5m程)、北殿。

夜半風が強くなった。1842Pへのアタックはやめて、ペテガリを目指すとにする。

- 3/6 (⊗) T.S.(10:30) → 1569P(12:20) T.S.

朝のT.S.はフツ程雪に→田々→山々→山々夜の風は少しおさまっておつた。3時頃から雪がまし、天候の回復が期待できる。4時頃まで小峠を得、T.S.祭。しかし、行動中は風雪がおさまらず、稜線が見えにくく雪痕をぬかぬかしながら進む。稜線そのものも難しくとるが有った。頭初、1569P-1600Pの谷まで予定であったが、いいT.S.(1張り程度の広さ)が有ったこともあり、1569PとT.S.とした。

- 3/7 雪は降ってないが、視界悪く北殿。予備日があと2日となり、明朝、ペテガリ西尾根まで行けそうな天候でなければ、Escape するとにする。

- 3/8 (ガス) 1569P(6:45) → ヤオロマップ岳(8:30) → ①コイカクシュサツナイ岳(10:30) → ⊗ 夏尾根取付き(上二岐)(12:30) → ⊙ サツナイヒュッテ(16:30)

ある程度の天候はあったが、安定しておらず、Escape するとにする。稜線上は風が強い。ヤオロを越えると視界が開けた。夏尾根のぼしぼしは、ヤせているので慎重に進み、シリセードをカローながら二岐へ。再び、スキーヤーとなり、ビンディングが途中ではずれてしまう人なども居たが、モタモタしながらもヒュッテに着いた。

- 3/9 (⊙) 北内ヒュッテ(7:15) → 南北内(12:20)

シールをはずして快適に進む。

絶好の下山日和で"あったが、振りがえるに日高。お山は荒んでるようだった。

▣ 個人の感想等

ノ景がくるいとうになる。呈、楽しかった。(丸山)←タカトリ代弁ノ

ノサムカット。タノニカット。(モロ)ノ

ノ日高山系は奥が深くスキーが必ず必要である。スキー技術の差がかなり行動を左右するのではなう。・稜線は鋭くやせておりT.S.も少なく

雪洞も堆積する場所へ退らしているので"慎重な行動が必要。・風も

強いられた。・丸山川は事故の多う所だが今回は無事下山出来

た。・寒気も厳しい、下山の日は太陽が出ていても手が冷たく感じる

今度はスキーをもっと練習して、又体力をつけてペテガリにアタックしたいもの(三。(Sawada)ノ

ノ色々な面で有意義であり、又楽しかった。

ま(三、栗(三。(Jakatori)

○ 鹿島槍荒氷奥壁北稜

Member) ① フジイ、ケノウ、沢田、細川

・3/5 (0) 7:00 大谷原 → 天狗の頭 11:30 B.P.(雪洞)

取付きは、荒氷出合から100m程入った左岸。1pitchほど

Bushと雪がとこどこに残っている斜面をのぼる。1pitchで稜線

に出る。オ17-ロアルを二えて天狗の頭へ出る。僕らの為には大きな

雪洞があらかじめあった。初心者をついでゆくなら、オ17-ロアルの

あたりはfixが必要かもしれない。雪はしまっており、トレスもあった。

午後からは雪崩の音がひびいてきた。

3/6 (土) 2400 ① かつら, 沢田, ② フジイ, 細川

5:00 B.P. - 取付 7:30 → 3:00 B.P. → 7:00 大谷原 → 鹿島部
7:30 → 松本

下部岩壁には雪は余りついてなく, 安全なステップも切れない様だった。
かつら, 沢田 Party は 1 pitch 目で沢田が転落。ヒザを痛めたので
B.P. へもどった。(11:00), フジイ, 細川 Party も 2 pitch まで登るの
のぼりもその山以上不可能と判断し, 下降。B.P. へもどって(2:30)
下山した。

(感想) 午後になると小規模雪崩がひっきりなしに起っていた。この
尾根は長く, 雪の状態にかなり左右されるので, 登るか登らないかの判断
が非常に大切であり, 容易に取付くべきではない。又トリフいたら一日は登り
切れぬおぼろげな下階は難しい。北岩峰~M岩峰~稜線の間が
核心部であるが, いづれにせよ雪の少ない時の登攀はかなり難しい。
転落してヒザを痛めたが, ランニングの取方のまずさを反省している。来年こそ登り
たい。(sawada)

○ ハヶ岳 定着

期間) 3/6 ~ 3/10

Member) ① 田辺, 関, 細川, 藤田, 古賀, 日高, 木根田, 加藤

• 3/6 (◎) 7:00 美濃戸口 → 10:00 行者小屋 (B.C.) B.C. 12:00 (◎)
雪壁 12:00 F1 (15m) 取付 2 (1:15) 終了 (1:40) → 稜線 (15:15)
→ B.C. (4:20)

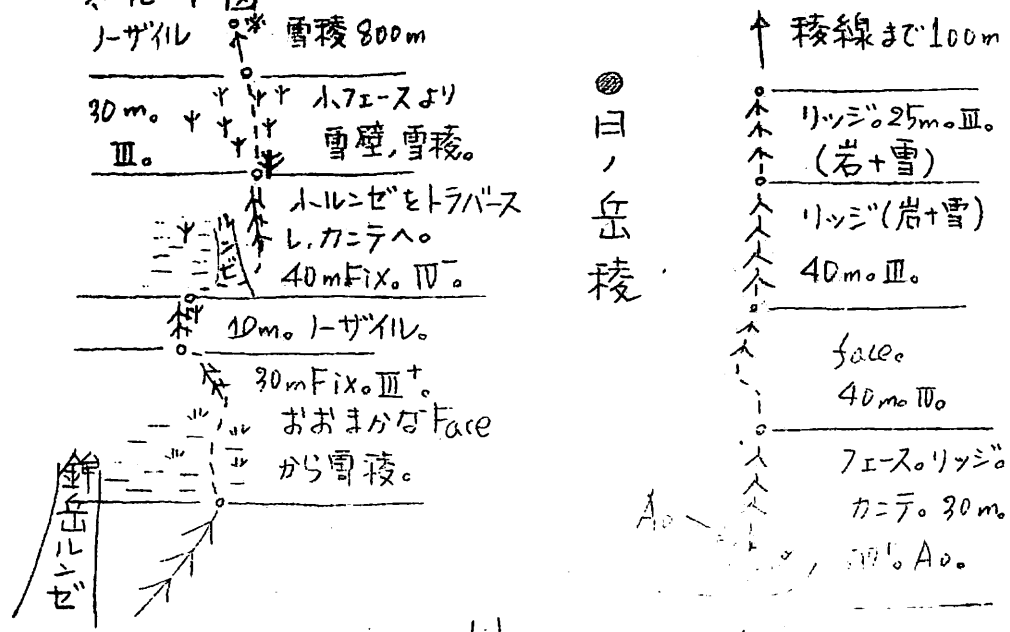
• 3/7 (◎) *
B.C. (7:20) → 日) 岳 稜 取付 3 9:00 (2 pitch Fix 練習, 後
肉帰天), 登攀開始 (12:20) → 稜線 (15:00) → B.C. (16:20)

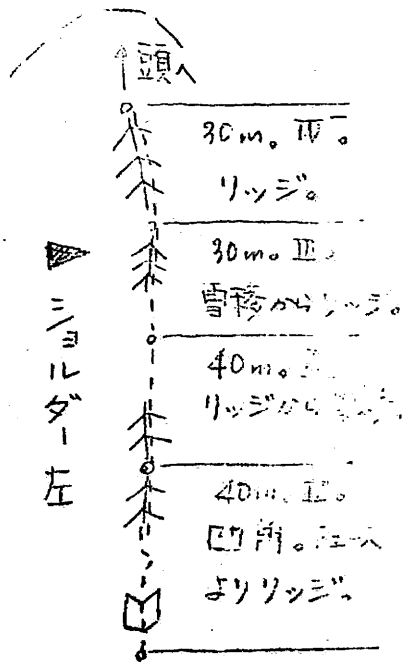
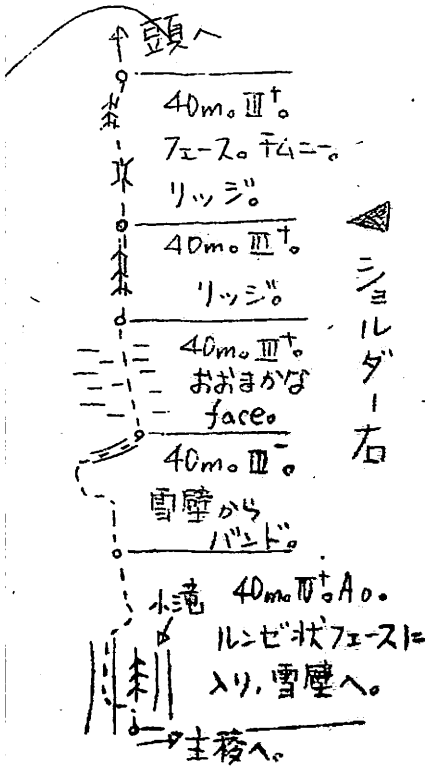
- 2/8 (D)
 - ・シヨルター右^{*}(加藤, 細川) 取付き 7:30 終了 9:40
 - ・赤岳主稜^{*}(田辺, 岡, 木根田) " 7:30 " 9:10
 - ・シヨルター左^{*}(全員) " 11:00 " 11:50
 - ・南峰リッジ中央稜(細川, 木根田) " 13:20 " 14:10
- 稜線
12:10
B.C.着
15:00
- [加藤下山]

- 3/9 (D)
 - B.C. 6:20 [木根田下山]
 - シヨウゴ沢本谷 F₁(4m)---練習, F₂(10m), 左の大滝(15m)
 - 稜線直下 10:40 → 横岳 12:00 (田辺, 地蔵尾根より下山)
 - 赤岳 (13:00) → B.C. (13:50)

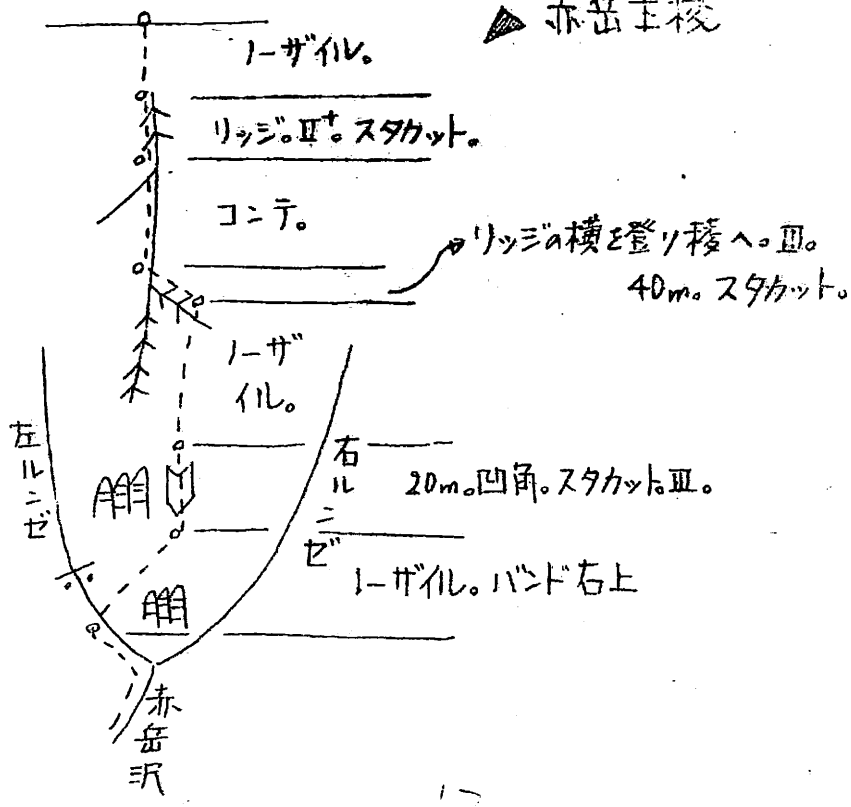
- 3/10 (D)
 - B.C. 5:40
 - 阿弥陀北稜取付 6:40 終了 7:40 B.C. 8:30 (徹収)
 - B.C. (10:10) → 美濃戸口 (13:30)

※ルート図





▲ 赤岳主稜



○ 前穂東壁

期間) 3/12 ~ 3/16

Member) ① フジイ, 山本

- 3/12 (◎) 松本 = 沢渡先 at ニネル (9:30) → 町童橋 (12:30)
→ 徳沢 (14:30)
上高地の積雪 10~20 cm 徳沢 30~50 cm と少なう。
- 3/13 (○) 徳沢 (8:00) → 松高尾根取付 (10:00) → 奥又池 (11:30)
松高尾根の下部は適当な雪の中, 木登り。雪崩の恐れなし。F.F. 降雪
後は池の直下が少し滑るなうと思う。
- 3/14 S.H. (6:30) → C沢 → C face 取付 9:00, 9:30 -
- オ1バインド 14:30 → B face → V字雪渓 (18:00)
16:30
C沢は、雪崩、落石の心配なく登れる。C face は思ったより急峻^{急上}に感
じられ、荷上げがうまくゆかず、全て荷い^いに^により苦しい。
オ1バインドをトラバースし^しるのであるが、不安定で、死にそう。氷壁の氷公
になるかと思う。
- 3/15 (◎) (3カ)
- 3/16 (◎→○) S.H. (6:30) → 前穂 (7:00) → ヒョウタン池 (10:00, 10:30) -
- 明神 (12:00) → 上高地 (13:00, 14:30) → 沢渡 (18:30)
S.H. より V字を^めめ, Peak入。明神主峰へ向かう予定であったが
止めて、A沢を下ることにする。しかし、何故か間違え、下又を下降、
すぐ気付いたが下又より明神東稜へ取付くことにする。
ヒョウタン池の200m程上部に楽に出る。

(感想) 二人して力が欠乏してしまった。

(何度か再度チャレンジしよう。と!)

○戸城の行程

期間) 4/5 ~ 4/7 Member) 田辺, 田三判

• 4/5 (日) 長野(12:00) → 宝光社(14:15) → 天狗原(17:00)
戸隠連峰は奥に6月の様相を示してゐた。天狗原で20cm程の積雪。

• 4/6 (日) T.S.(6:30) → シャンション(9:40) → P1(11:40) —
→ 一息の峰(15:50)

P1をよぼしほピークにあえぎあえぎ(T.A)登り、ピークに立つ。
我々は登攀を終了を確認した。とらがこには、シャンションと呼ば
れるピークで降り、眼前に雪壁が立ち上りてゐた。このあたりは、
朝の雪等が溶けてゐるが、相当の困難が予想される。我々の
心はシブクと刺激した。スタカット(4P)で行くが無雪期に近い
内容だ。西岳キレットではアツザイルン40m。

• 4/7 (日 → 時々)

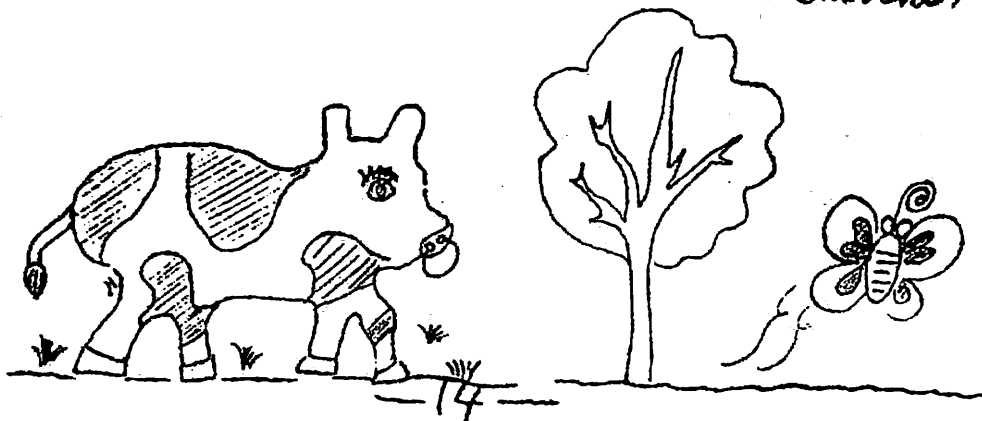
T.S. → ハオトらみ(7:20) → 奥社 → 中社(10:10)
(8:40) (8:50)

ハオトらみからの降り口(蟻の穴等)は、まだアリンコも
落ちてくるが鏡でみると、問題はなかった。

中内部分は道場の連続。(10ヶ所程)

中内部分の道場は黄に値する。

(Mr. Sabuchi)



中央アルプス登攀 & スキー

3/4 ~ 17

L. 保科, 細川

3/4 晴れ

千畳敷着 (ロ-アウエイに2) 11.15

千畳敷 1.00 ~ 極楽平着 1.30 ~ (スキー滑降) ~ 千畳敷着 1.50

3/5 曇り/雪

千畳敷発 6.00 ~ 宝剣山荘 6.35 (沈没)

3/6 曇り/晴れ

宝剣山荘発 7.50

左フランケスラブルト取付 8.50

// 終了 11.30

黒川滑降開始 12.45

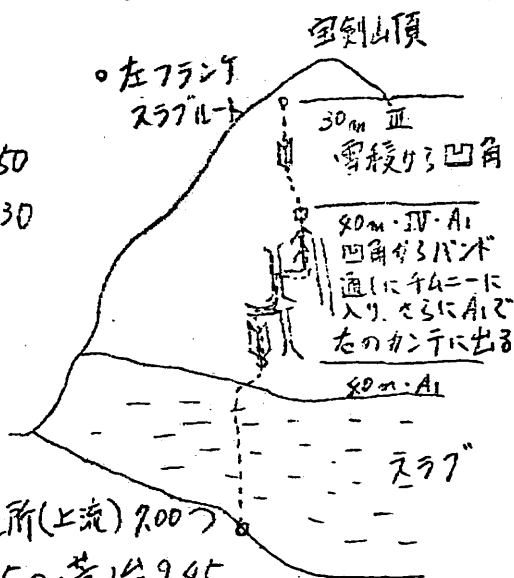
大滝下 1.15

伊勢滝小屋 4.10

3/7 晴れ

小屋 6.30 ~ (スキー) ~ 発電所(上流) 7.00

C(徒歩) ~ 発電所 9.15 ~ 菅台 9.45



★黒川滑降

大滝まではクワストにいて怖かった。大滝は横滑りで。

大滝下からは雪がクサクサ。荷物が軽ければ、小峠まで(砂)。

平均斜度25°くらい? (糸田川)

鳳凰三山縦走

3/22 ~ 25

L. 沢田, 石渡

3/22 快晴

伊那 6.20 ~ 戸台 7.20 ~ 北沢小屋 1.00

(この日あすこで表層雪崩発生, 甲斐駒でも1人死亡)

3/23 晴れ 強風

T.S. 7.00 ~ 粟沢 8.30 ~ 早川尾根小屋 1.00 (粟沢 10.00 まで)

3/24 小雨 強風

沈没. 10時頃より晴れと存. 下谷. 翌日も晴れと存. 下谷

EL 3 1日中屋

3/25 晴れ 強風

小屋 5.30 ~ 地蔵岳 9.00 ~ 蘆師小屋 1.00 (蘆師小屋 12.10)

風がきつくと稜線は寒がた。

感想. ESSON ばかりで, 沢田のほかに会った人が, 寒い山行
だった. もう三度と行かないでしよう. (天田)

剣岳 八ヶ峰縦走(三稜山)

メンバー L. 藤井, 田辺, 細川

〇期間 3/2 ~ 3/8

〇行動記録

3/2 晴

松本 ~~→~~ 大町 ⁷⁷³⁻ 奥の谷 ^{11.30} — 扇沢駅 ^{12.50} — ダムサイト ^{2.20}

道路は除雪にあって運雪の靴でハダダと歩く。トンネル入口のビシッという
ワイルドは所要時間5分で7リ。閉電の人にいせもんをつけてくれ
たが昨年と同様かへるく無視。

3/3 晴

展望台 ^{5.45} — 内蔵助平 ^{8.00} — ハシゴ岩乗越 ^{10.00}

内蔵助の雪は固くはまっている。ワカンをつけてホコホコ。こり布夏利乗込
積雪2mくらい。今日のうちにP₁まで行こうかかと思ふけど。
雪洞が掘れなかつた悲惨なのでヤメ。

3/4 小雪時々晴 沈没

3/5 小雪。ガス(冬山利も冬山らしい天気)

雪洞 — 取付 — P₃ — P₆ 付近
^{7.15} ^{8.05} ^{11.30} ^{3.30}

取付は、三稜の末梢が扇状に広がった右峰1である。剣沢の雪
も固くはっていた。P₁の岩壁の下からザイルをつけ、この白ザイルは
7ピッチ使用した。P₁からスバリ台のLンセ"による所と、P₃からP₅の
ナイフエッジが三稜の核心部といえる。P₃付近から雪が深くなり
雪洞も可能である。P₅まで登ると稜はなだらかになる。胸までの
ランセルに杖がさして適当な所に雪洞を掘った。

3/26 小雪、ガス

雪洞——5.6 のコル
7.30 8.10

7カンを抜いて出発したガスラフが危険なのでアルゼンにガス。アイスバーンの上に新雪がこもりと積もった状態だ。ひたすらラセルでI峰にぬりる。I、II、III峰の下降ではいずれもザイルを便用する。ホワイトアウトの中でルトアインディングは困難を齎めた。頭上を這うラセルでIV峰に立つ。雪崩のような斜面をノーザイルで100m下降して5.6のコルにおいた。コルでは少なくとも15m以上の積雪があった。

3/27 峠晴

雪洞——VII峰D左ノ頭——池の谷乗越
7.45 9.50 3.50

前日ほどはうかがわぬ好天に恵まれた。3本ルトブルーの登と緩急の八峰。全身で高度をつかみとて行く我々3人。瞬時雪で埋ぐトアの姿をかく。真冬ばかりの深雪でラセルは足々といき進みD左ノ頭の頭まで2時間を消費した。VII、VIII峰はキは雪とすのこりに身ごもる。おもに行くのは困難だ。三ノ尾側を慎重にトラス。雪質は不安定だがステップと背のな限り。雪崩とふりまはなかった。VIII峰をさようじまいた時だった。神経をとりハコトラス利も三ノ尾側に下降しようということになった。前日と違っておもいおれのトレス^雪をつけて下降を始めた。すこし間歇をあげて細川が下降を始めた瞬間。細川の足元から雪が一斉に雪崩おらた。細川は滑落をまぬがれたが。前日は雪崩おらたに約100m流れた。足に軽に打撲。おのトレスに掛りお。弱くなった雪おらた。体のトレスおつたのが雪崩の直接の原因と考えられる。

2本のトレースの外側を3人目が下降していれば、または最初が3
 全員が内側のトレースを下降していれば避け得られたアクシデントで
 あった。が木のが木と降りて行けば、雪が適度に踏み固まり、スリ
 フになる状態だった。このことも判断を甘くした一因であった。
 三志雪渓に入ると、ラッセルは身になり、すぐ八峰の頭をめけた。
 池谷乗越は40mのアフザレン。

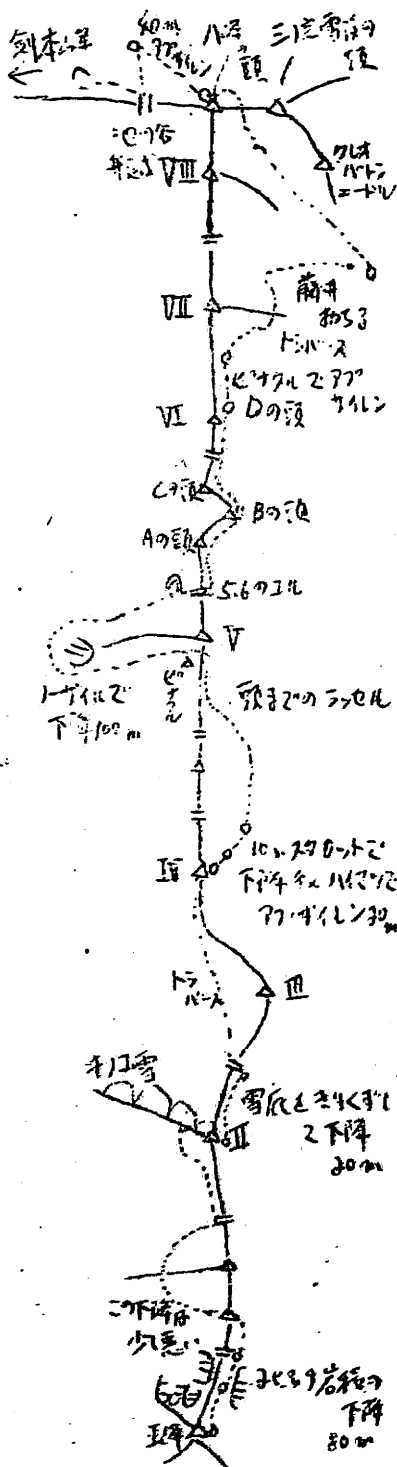
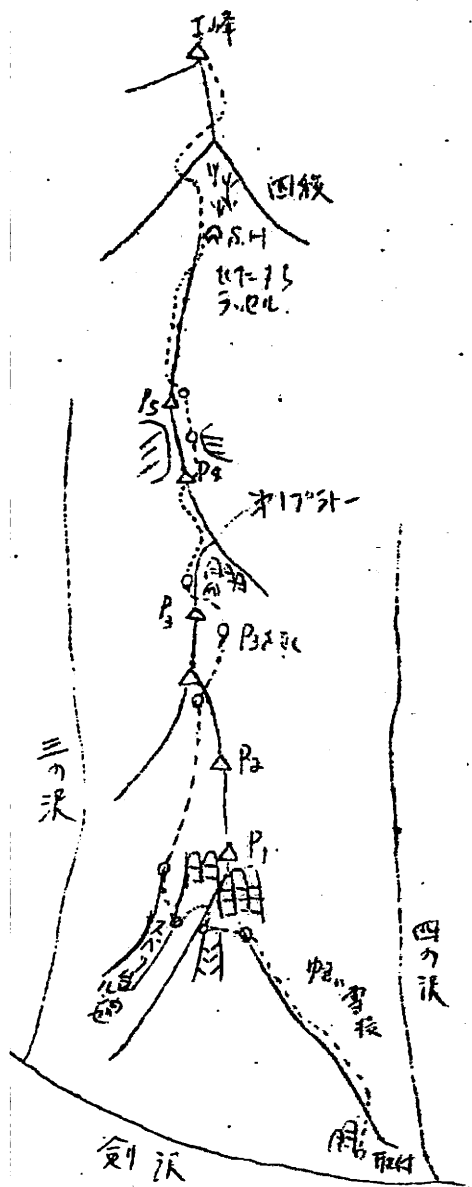
3/28 晴

雪洞 — 剣先峰 — 伝蔵小屋 — 馬場島 ⁹⁷³⁻ 上市 — 高山
 7:30 8:30 12:30 2:50

山頂ではすじだった。ルートファインダーにも迷うところもなかった。
 ここの終った雪囲気になったのがすじだった。早朝尾根の下降
 は凍にあふとれない。氷の上に少し雪がつかっている状態では、ツル
 ツルクスで慎重に下る。伝蔵小屋まで来た3全員ふるふる。あとは
 酒を飲みに一息で馬場島に駆け下った。

3/28; 八峰は、ルートファインダーの難が(まじ)はじか(た)らう。技術
 的には、1つ1つ困難で「日な」が、平均に難が(い)いのが続くのと
 気が抜けない。あとはラッセルの島かであらうか。「これで一年分の
 ラッセルをねた」というのが僕37年直な感想である。

剣をこれほど大きく感じたのも初めてであった。山頂にふつかに
 1週間かかる山を、今日で回復したことがあった。(田辺)



妙高山スキー

メンバー: L. 保科, 岩村, 藤田, 日高, 中村

期間: 8/5 ~ 9

8/5 快晴

松本 ~~→~~ 妙高高原 ~~→~~ 三ノ山スキー場 — 1910m (TS)
10.30 3.10

スキー場では 1910m 麓クリフトを機目にエ.97.ホ.97.に登る。1500m 付近からはスキーで登る

8/6 快晴

T.S — 兼蔵 ~~←~~ 妙高山 — 黒沢池小屋 (T.S)

妙高山の登りは 季節の危険のある夏遊歩の北側の斜面を登る。下山途中で発生した事故については 事故報告書参照。

黒沢池小屋は 簡易に流れた木のとなりの物置をこじあけ、みか飯

8/7 みぞれ/曇/雨

T.S — 尾根先端 — 川 1700m 付近 (T.S)
9.10 12.35 3.30

藤田をソリに乗せて尾根先端まで運ぶ。ここからソリに荷物をまつ。藤田をソリで行った。1700m 付近で雨が降りだし 行動中止。

8/8 雨/曇

T.S — 京大ヒュッテ — 1376m P. 211
12.00 2.30 5.25

半沈の夜出発。京大ヒュッテまで行ける。ソリとザックを W ボック

8/9 曇

T.S — 妙高別荘スキー場 — 杉野沢下山
6.45 7.25 9.45

1-ルンウィー7山行報告

白馬主稜～不帰足着

×心-; L. 茂呂丸山 田渕 石渡 中村

期間: 8/28 ~ 8/31

8/28 晴/曇

松本 ~~白馬~~ 白馬 = 猿倉 ~ 白馬原
3.00

8/29 雨 沈澱 雲洞堀り

8/30 雨/曇 沈澱

8/31 曇 往路下山

感想: 近年秋にみず有る義行実行21火 (中村)

穂高遠征合巻

XN-; L小根田(田)二候下世藤松加藤(田)田保村

細川, 井上

期間; 5/30 ~ 5/31

5/30 曇/雨

上高地 ——— 横尾 (B.C)
1.00 8.00

5/31 曇/雨

B.C ——— 酒沢 ——— B.C
5.30 7.30 2.00

酒沢にて雪割 (コン) 8.50 ~ 17.30

5/2 雨 沈澱

5/3 曇/雨

B.C ——— 酒沢 ——— B.C
5.00 7.30 1.30

酒沢にて雪割 (コン) 7.30 ~ 12.00

5/4 曇 強風

B.C ——— 明神 ——— 東後取付 ——— <四角毛IP296.1 (11m) IV>
6.50 8.30 10.30
—— 主峰 ——— 前穂頂上 ——— 奥穂頂上 ——— 白土の乙 (BP)
1.00 2.30 4.30 5.30

5/5 曇/晴

B.P ——— 酒沢 ——— B.C (徴収) ——— 上高地
5.30 6.15 7.30 10.30 12.15

Member) ① イムラ (IV), フジイ (IV), コガ (II), ヒダカ (II), タカト (II)

行動記録

- 5/1 国鉄山都駅-バス→一木 8:50 → 御沢キャンプ場 11:40 (◎)
- (◎) → 14:40 地蔵岳 → 三国小屋 15:20

キャンプ場までの村道沿いには山菜が豊富。尾根の中ほどで雪が出てくる。

- 5/2 (◎) 10:15 15:50 → 12:55 本山と草薙家のコル → 15:55 御西小屋
尾根の北側登山と出発。道と南側を、種時山から西方への山
道と見えてしまう。本山を少し下ったところよりスキーをかける。後斜面が
続く。

- 5/3 (◎/◎) 8:40, 10:50 御西小屋 ⇨ 大日岳 9:35
11:45 御西小屋 → 14:45 梅花皮小屋
大日岳直下は急登。接線は大部分スキーで行けるが、下手
な人はあまり滑りにくい。小屋西側の斜面でスキーして遊ぶ。

- 5/4 風雨の中、皆は出て行、たが山すずか殿してしう。

- 5/5 (◎ 風強シ) 9:40 梅花皮小屋 → 13:00 飯盛山荘
→ 14:00 十ヶ荘 → Bus → 国鉄小国駅

天候も良く滑りやすくなり、おりのよい。小屋から少し下った
ところ、スキーのエッジがつかず、コガ、タカト同時に滑落す
るが、10~20mで止まる。暖斜面になるまで歩いておる。

飯盛山荘まで、ほぼほとんどがスキーでみた。

(comment) ↑)

*(comment) 事前=ケレテ、山スキーを用いて練習してくる。
(ニカトリ)

○ 後立縦走

期間) 3/3 ~ 3/9

Member) ① 岩村, 田 洸

☑ 行動概要

- 3/3 (○) 大谷原(10:30) → 西沢出合(11:30)

500m程, 沢を偵察。

- 3/4 (○) T.S. (6:00) → 鎌尾根末端(7:20) → 主稜線下100m
(13:30)

テグリのラッセル=バテル。尾根下部は雪の状態では

雪崩の危険有り。

- 3/5 (⊗) ③

- 3/6 (⊗) T.S. (7:00) → 稜線(9:20) → 鹿島橋Peak(10:10) →
→ フレット(15:30) → 小屋(16:00)

ガスの中のフレットは非常にシビア。又、檜のPeakをま(地帯で)支尾根
に入り込む。要注意。フレットにてザイル3pitch。ヒールはといた。

- 3/7 (強風, ガス) ③

- 3/8 (○) 小屋(7:00) → 五龍Peak(10:30) → 五龍小屋(11:40) →
→ コル(13:00) → 唐松小屋(15:10)

素晴らしい稜線歩を楽しみ、「山はいいなあ」と思える貴重な時間。

フレット小屋のトラバースがバッチャン危険だった。

- 3/9 小屋(9:30) → スキ-場(12:00)
(八方尾根)

下に降りたら世界は春だった。

ボクらは、ま(あり)の春らしさの中で、思いがけずく(み)をした。





'82 春山, Golden week 山行
報告書

昭和 57 年 5 月 20 日 第 1 刷 発行

発行: Shinshu univ. alpine club co. ltd.

印刷: Sac® 伊那中原印刷所

(超高速特殊新鋭印刷機使用)

非売品